

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和5年3月23日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
3月26日（日） 13:30～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への改革～」
3月27日（月） 11:00～17:10	日本学術会議 講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「計算音響学の目指すもの」
4月11日（火） 13:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム第15回防災学術連携シンポジウム 「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」
4月15日（土） ～16日（日）	東京工業大学 大岡山キャンパス西9号館 （ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「第69回構造工学シンポジウム」
4月16日（日） 13:00～15:50	オンライン開催	公開シンポジウム 「地球上の環境変動と生物リズム」

※新型コロナウイルス感染症の等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

シンポジウム

コロナ禍で顕在化した危機・リスクと 社会保障・社会福祉

～ 誰一人取り残さない制度・支援への改革～

日本学術会議社会福祉学分科会が表出した（予定）「見解：コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への改革～」にもとづき、見解執筆者らによる提案の背景、意義、内容の報告に対し、外部有識者らからのコメントをふまえ、誰一人取り残さない制度・支援への改革にむけた今後の展望について議論する。

登壇者



稲葉 剛



大和 三重



竹本与志人



原田 正樹



古都 賢一



保正 友子



山野 則子



湯澤 直美



和気 純子



和田 肇

プログラム

- 開会 保正友子（日本学術会議連携会員 日本社会福祉系学会連合会長）
- 第Ⅰ部『報告』
 - 和気 純子（日本学術会議第一部会員 東京都立大学教授）
「趣旨説明、日常生活に支援を要する人の危機・リスクの低減と制度改革」
 - 原田 正樹（日本学術会議連携会員 日本福祉大学教授）
「生活困窮者における危機・リスクの低減と危機における差別防止と制度改革」
 - 山野 則子（日本学術会議特任連携会員 大阪公立大学教授）
「子ども家庭における危機・リスクの低減と制度改革」
 - 湯澤 直美（日本学術会議連携会員 立教大学教授）
「女性における危機・リスクの低減と制度改革」
- 第Ⅱ部『コメント・討論』
 - 和田 肇（日本学術会議第一部会員 名古屋大学名誉教授）
 - 古都 賢一（全国社会福祉協議会副会長）
 - 稲葉 剛（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事 立教大学客員教授）
- 閉会 竹本与志人（日本学術会議連携会員 岡山県立大学教授）
- 司会 大和三重（日本学術会議連携会員 関西学院大学教授）

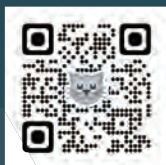
2023年

3月26日(日) On-Line

13:30～16:00

無料

お申込は
こちらから



お問合せ：0326symposium@gmail.com

主催 日本学術会議社会学委員会・社会福祉学分科会

共催 日本社会福祉系学会連合 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

後援 社会福祉法人全国社会福祉協議会 日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）

公開シンポジウム

計算音響学の目指すもの

日時：令和5年3月27日（月）11：00～17：20

場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

- 司会 山本崇史（工学院大学工学部機械工学科教授）
- 11：00 挨拶：越塚 誠一
（日本学術会議連携会員、東京大学工学系研究科システム創生学専攻教授）
- 11：05 開催の趣旨：吉村 卓也
（日本学術会議特任連携会員、東京都立大学システムデザイン研究科機械システム工学域教授）
- 11：10 「アンティーク・ヴァイオリンの振動と音場に関する数値解析」
横山 真男（明星大学情報学部情報学科教授）
- 11：40 「楽器の研究における計測とシミュレーションについて」
若槻 尚斗（筑波大学システム情報系教授）
- 12：10 ～ 休憩 ～
- 13：20 「自動作曲の可能性と限界」
嵯峨山 茂樹（東京大学名誉教授）
- 13：50 「観察と対話に基づく自律エージェントの音声言語獲得」
篠崎 隆宏（東京工業大学工学院情報通信系准教授）
- 14：20 「音を直感的に表現するオノマトペの数値化」
坂本 真樹（電気通信大学 副学長）
- 14：50 ～ 休憩 ～
- 司会 谷口 隆晴（神戸大学大学院システム情報学研究科准教授）
- 15：00 「音響楽器シンギング・リンの振動音響解析」
黒沢 良夫（帝京大学 理工学部 機械・精密システム工学科 教授）
- 「音の脳への影響」
満倉 靖恵（慶應大学システムデザイン工学科教授）
- 15：40 「計算音響学と自動車」
石濱 正男（明治大学客員研究員）
- 16：10 総合討論「計算音響学の今後へ向けて（夢が広がる計算音響学）」
（司会）雉本 信哉（九州大学 大学院工学研究院機械工学部門 教授）
（コメンテーター）岡村 宏（芝浦工業大学名誉教授）
（コメンテーター）坂本 慎一（東京大学生産技術研究所教授）
（コメンテーター）満倉 靖恵（慶應大学システムデザイン工学科教授）
- 17：10 閉会の挨拶
萩原 一郎（日本学術会議特任連携会員、明治大学研究特別教授）

主催：総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共催：可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本音響学会、日本機械学会、

日本計算工学会、日本計算数理工学会 日本計算力学連合、

日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

後援：自動車技術会、騒音制御工学会

申し込み方法・連絡先

<https://forms.gle/y52sctPivoovawcw27>

（Google Form による回答、3/22まで、定員になり次第締切）



日本学術会議公開シンポジウム・第15回防災学術連携シンポジウム

気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開

日時：令和5年4月11日(火) 13時～17時

開催：オンライン開催 主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、一般社団法人 防災学術連携体

参加費：無料 定員：1000名(ZOOM ウェビナー)

申込方法：下記のフォームからお申込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S78857005/>



※当日の発表資料は、防災学術連携体のホームページに掲載いたします <https://janet-dr.com/>

開催趣旨

関東大震災から100年にあたり、地震災害とともに、私たちに迫りくる気候変動に伴う災害に対しても、意識の向上や災害対策を進めていくことが重要である。近年、台風・豪雨災害が毎年発生し、猛暑を含め異常気象による災害リスクも深刻となっており、世界各地でも熱波や洪水・干ばつなど、地球温暖化の進行も反映して災害が頻発している。さらに、国土と社会構造の変化に対応して災害の態様も変化してきている。このような状況も踏まえて災害対策や防災研究を進めていく必要がある。このため、日本学術会議 防災減災学術連携委員会と、62学協会等で構成する防災学術連携体は、「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」をテーマに公開シンポジウムを開催する。

シンポジウムでは、防災に関わる学協会の専門家が集い、気候変動がもたらす災害リスク、避難・救命救助・復旧活動などの防災対応、国土利用・まちづくりなど災害対策についての最新の研究・取組を共有し、今後の災害対策・防災研究のあり方を議論・展望する有意義な機会としたい。

プログラム

司会：日本学術会議連携会員 田村和夫、永野正行

13:00 開会挨拶・趣旨説明 日本学術会議会員、防災減災学術連携委員長 米田雅子

13:05 来賓挨拶 内閣府政策統括官(防災担当) 榊 真一

13:10 学協会からの発表(各10分、入替1分)

13:10～14:27 セッション1：気候変動にともなう災害リスク研究の新展開

日本地すべり学会	急速に気候変動が進む北極圏の斜面災害ーグリーンランド北西部の現地活動から	山崎新太郎(京都大学)
日本気象学会	地球温暖化に伴う台風とそれがもたらす豪雨の将来変化	金田幸恵(名古屋大学)
水文水資源学会	地球温暖化による河川洪水の変化	平林由紀子(芝浦工業大学)
日本地理学会	酷暑のメカニズムを気候学の立場から問い直す	日下博幸(筑波大学)
日本地図学会	地域に遺された災害のヒントの時空間情報化	遠藤宏之(ネクストバリュウイング)
日本応用地質学会	多発する豪雨災害に対するリスク軽減の応用地質学的アプローチ	稲垣秀輝((株)環境地質)
地盤工学会	気候変動がもたらす地盤災害リスクの増加と地盤工学的解決策への展望	村上 哲(福岡大学)

14:27～14:40 休憩

14:40～15:46 セッション2：避難・救命救助・復旧活動などの防災対応の新展開

日本リモートセンシング学会	地球観測技術による気候変動がもたらす災害対応への最前線	伊東明彦((株)ツクリエ)
日本災害医学会	近年の災害における被災地域での医薬品供給体制の新展開	江川 孝(福岡大学)
日本建築学会	災害対応型の建物統合管理システムを活用した地域の災害情報マネジメント	増田幸宏(芝浦工業大学)
日本災害看護学会	令和4年8月豪雨災害における初期から中長期支援活動	酒井明子(前福井大学)
安全工学会	化学・石油プロセス産業における、自然災害による被害と、その影響への対応	石丸 裕(大阪大学)
廃棄物資源循環学会	廃棄物処理システムに係るレジリエンス向上に向けた国際展開	多島 良(国立環境研究所)

15:47～16:42 セッション3：国土利用・まちづくりなどの災害対策の新展開

日本地域経済学会	語りから始まる人間復興のまちづくりー小高まちあかりプロジェクトー	山川充夫(福島大学)
日本緑化工学会	高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える	橘 隆一(東京農業大学)
土木学会	気候変動下の洪水適応オプションと地域性	風間 聡(東北大学)
日本自然災害学会	気候変動と水害リスク：少子高齢化と災害環境の激甚化を見据えて今何をなすべきか(仮)	多々納裕一(京都大学)
日本都市計画学会	まちづくり、都市計画における災害対策の今後の方向性	加藤孝明(東京大学)

16:43 質疑応答 防災学術連携体幹事 橋田俊彦

16:55 閉会挨拶 防災学術連携体代表幹事 森本章倫

第69回 構造工学シンポジウム

主催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
共催：日本建築学会、土木学会

本シンポジウムは、『構造工学論文集 Vol.69』の登載論文を中心としたシンポジウムを開催することによって、産・官・学、各界の研究者・技術者に学术交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を目的としたものです。建築部門と土木部門それぞれの論文投稿者による発表のほか、特別講演および建築・土木合同のパネルディスカッションを実施します。

会期——2023年4月15日(土)～16日(日)

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館

ただし、特別講演を含む一部はハイブリッド(予定)

※開催方法、会場等の変更は構造工学論文集編集小委員会 Web ページにてお知らせいたします。随時ご確認ください。(http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s11/)

参加費——無料(要・事前申込) ※詳細は構造工学論文集編集小委員会 Web ページにてご確認ください。

論文集——『構造工学論文集 Vol.69A』(土木)『構造工学論文集 Vol.69B』(建築)は、2023年4月上旬にJ-STAGEで発行・無料公開する予定です。
※冊子の論文集は作成いたしません。

掲載討議方式実施のお知らせ

『構造工学論文集 B』(建築)では、掲載討議方式を実施しています。会場での討議に加えて書面による討議を実施し、その内容を次年度の論文集に掲載します。これにより、シンポジウムに参加できない読者にも討議の機会が与えられるとともに、討議内容が公表、記録されることとなります。討議実施要領ならびに討議文書様式は、論文集に掲載いたします。

●開会式・特別講演会・パネルディスカッション

会期——2023年4月15日(土) 15:00～18:00

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館および
オンライン(予定)

1. 開会式 15:00～15:10

挨拶：前川宏一(日本学術会議土木工学・建築学委員会/横浜国立大学)

米田雅子(日本学術会議土木工学・建築学委員会/東京工業大学)

司会：中村聖三(長崎大学)

2. 日本学術会議土木工学・建築学委員会の2019年提言と実大免震試験機の実現について 15:10～15:25

講師：高橋良和(京都大学)

竹内 徹(東京工業大学)

3. 特別講演会 15:25～16:25

「2050年カーボンニュートラルに向けた建設分野の取組」

講師：森久保司(国土交通省)

司会：中村聖三(前掲)

4. 建築・土木合同パネルディスカッション 16:30～18:00

「カーボンニュートラルと構造工学」(幹事：土木学会)

近年、地球の平均気温の上昇が一因と考えられる異常気象が世界で発生し、我が国においても激甚な豪雨・台風災害や猛暑が頻発している。平均気温の長期的な上昇傾向を抑えるためには、温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることが必要とされており、我が国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを2020年10月に宣言した。温室効果ガスは経済活動・日常生活に伴い様々な場面で排出されるため、カーボンニュートラルの実現に向けて、温室効果ガスの排出と吸収の実態を理解し、あらゆる主体が効果的に取り組むことが求められている。

土木・建築分野においては、施工時の温室効果ガス排出量の削減の他、個別資材の製造時や建設された施設の運用時における温室効果ガスの排出量削減・吸収、再生可能エネルギー関連施設の建設等を通して、脱炭素化への幅広い貢献が期待される。国や企業、大学において脱炭素技術の開発や制度・基準の制定などの取り組みが本格化している。

第69回目となる今回のシンポジウムの特別講演会とパネルディスカッションは、カーボンニュートラルに向けた構造工学分野における取り組みに焦点を当てる。カーボンニュートラルに関する国の取り組みや考え方の他、環境に配慮した材料の活用や再利用、再生可能エネルギーの活用にむけた技術開発などの構造工学分野における最新の状況を理解し、カーボンニュートラルに今後どのように取り組んでいけばよいか考える場としたい。

なお、特別講演に先立ち「日本学術会議土木工学・建築学委員会の2019年提言と実大免震試験機の実現について」と題して日本学術会議土木工学・建築学委員会からの情報提供をする。

司 会：長山智則(東京大学)

吉敷祥一(東京工業大学)

主旨説明：中村聖三(前掲)

パネリスト講演：

「鋼橋資源の有効活用、カーボンニュートラルに向けて」

春日井俊博(日本橋梁建設協会)

「鉄鋼部材リユースの可能性」

岡崎太一郎(北海道大学)

「洋上風力発電における構造工学の役割」

藤山知加子(横浜国立大学)

「木材を用いた建築物の世界的潮流」

五十田博(京都大学)

●建築部門発表講演

会期——2023年4月15日(土) 10:00～14:30

16日(日) 10:00～15:15

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館

●土木部門発表講演

会期——2023年4月15日(土) 9:15～14:30

16日(日) 9:00～15:00

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館

地球上の環境変動と生物リズム

2023.4.16(日) 13:00 - 15:50 オンライン(Zoomウェビナー)

開催趣旨: 地球の自転と公転により、気温、明るさ、湿度など、我々を取りまく環境は1日、1年の周期で大きく変動している。生物はこれら繰り返し訪れる環境の変化に、より良く適応するために、進化の過程で約1日、1年など、様々な周期のリズムを刻む生物時計を身に付けてきた。目覚まし時計やストップウォッチを持たない生物が正確に時を刻めることは驚きであるが、最近の研究によって、生物時計の仕組みが分子のレベルで明らかになってきている。そのような精巧な仕組みによって規則的な環境の変化に適応しているすべての生物にとって、温暖化など近年の急激な環境変動は大きな問題であり、生物リズムにも影響がおよんでいる。本シンポジウムではこのような環境変動が、バクテリア、植物、昆虫の生物リズム、さらにはヒトの身体に及ぼす影響について、分子、数理、生態、健康という切り口から話題を提供し、共通する問題点や解決策を探っていきたい。

- 司会** 秋山 修志 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所教授)
吉村 崇 (日本学術会議連携会員、名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長)
- 13:00** **開会の辞**
深田 吉孝 (日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、日本時間生物学会前理事長)
- 13:10** **【講演1】 光合成で地球環境を支えるシアノバクテリア:24時間を刻む分子の仕組み**
寺内 一姫 (立命館大学生命科学部教授)
- 13:40** **【講演2】 環境変動に敏感な森林生態系のフェノロジー**
佐竹 暁子 (日本学術会議連携会員、九州大学大学院理学研究院教授)
- 14:10** **【講演3】 温暖化を知らせる昆虫の生活史の変化**
沼田 英治 (日本学術会議連携会員、京都大学人と社会の未来研究院特定教授)
- 14:40** **【講演4】 気候変動下におけるヒトの健康**
橋爪 真弘 (東京大学大学院医学系研究科教授)
- 15:10** 視聴者からの質疑応答
- 15:40** **閉会の辞**
尾崎 紀夫 (日本学術会議会員第二部会員・幹事、名古屋大学大学院医学系研究科特任教授)
- 15:50** 閉会

主催: 日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同 生物リズム分科会

共催: 日本時間生物学会 後援: 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所